■リハビリテーション学研究科　リハビリテーション学専攻　理学療法学領域

片岡　正教　准教授

1．主な研究内容について

重度障がい者の社会参加支援を大きなテーマとして、これまでに、頚髄損傷者の自動車への移乗動作の分析や障がい者スポーツに関する研究に取り組んできました。特に重度の障がい者スポーツ選手の競技パフォーマンス向上については、まだまだエビデンスが確立されていない事も多いため、パフォーマンスの指標を確立することや、効果的なトレーニング方法について検証し、科学的な根拠に基づき、選手のパフォーマンス向上に関する取り組みを行っていきたいと考えています。

現在は、パラリンピック競技の中でも最重度の障がい者が対象となっている「ボッチャ」を中心に関わっており、ボッチャ選手の競技パフォーマンス向上のための研究を行っています。また、誰でも気軽にできるボッチャの競技特性を活かし、高齢者を含む様々な対象者の新しいリハビリテーションプログラムとしての有用性についても検証を行っています。

2．主な共同研究先

一般社団法人日本ボッチャ協会

株式会社ワントゥーテン　他

3．今まで指導した学位論文名

〈博士論文〉

2023 年度　『重度脳性麻痺ボッチャ選手に対する寝返り動作の反復によるトレーニング効果』

〈修士論文〉

2022 年度　『ボッチャ BC3 選手のポインター選択のルール抽出と選択指標の検討』

2023 年度　『座面傾斜がボッチャの競技パフォーマンスに与える影響について』

2023 年度　『投球前の上肢スイングがボッチャの競技パフォーマンスに与える影響について』

4．主な論文

- Yahagi K, Kataoka M, Ichiba T, et al.：Training effect of repeated rolling motions on boccia players with severe cerebral palsy: Comparison with the effect of conventional upper-limb training though a crossover test, Journal of Phisical Therapy Science, in press, 2024.
- Kataoka M, Yahagi K, Sugano H, et al.：Relationship between throwing distance, shoulder joint range of motion, and upper limb muscle strength in boccia athletes: A preliminary study, Scientific Journal of Sport and Performance, 2, 454-460, 2023.
- Kataoka M, Okuda K, Iwata A, et al.：Throwing distance and competitive performance of Boccia players, The Journal of Physical Therapy Science, 32, 574-577, 2020.
- 片岡正教，奥田邦晴，河合俊次，他：ボッチャ選手の競技パフォーマンス向上における低負荷・高速運動によるウォーミングアップの効果の検証，日本障害者スポーツ学会誌，25 号，35-38，2017.
- Kataoka M, Yasuda T, Okuda K, et al.：Movement strategies during car transfers in individuals with tetraplegia, a preliminary study, Spinal Cord, 50, 440-445, 2012.

5．現在の指導している大学院生数

なし

6．どのような大学院生の受け入れを希望するか？

障がい者支援に興味があり、特に実践的なフィールドでの活動を通して障がい者スポーツの研究に携わりたいと考えている方を希望します。